



## ファームウェア管理

---

- [インフラストラクチャ ファームウェアの更新, 1 ページ](#)
- [グローバルへのファームウェア ポリシーの設定, 2 ページ](#)
- [メンテナンス グループ, 3 ページ](#)
- [インフラストラクチャ ファームウェア更新スケジュールの設定, 6 ページ](#)
- [スケジュールされたインフラストラクチャ ファームウェアの更新ジョブの編集, 7 ページ](#)
- [インフラストラクチャ ファームウェア更新ポリシーの確認, 8 ページ](#)
- [ファームウェア管理, 8 ページ](#)
- [インフラストラクチャ ファームウェアの更新の防止, 9 ページ](#)
- [インフラストラクチャ ファームウェアの更新とディザスタ リカバリ, 11 ページ](#)
- [Lightweight のアップグレードについて, 13 ページ](#)
- [サービス パックについて, 14 ページ](#)

## インフラストラクチャ ファームウェアの更新

以前に、ユーザはドメイングループ1人あたりのインフラストラクチャ ファームウェアの更新をスケジュールしました。Cisco UCS Central の機能が変更されています。ここで、メンテナンス グループとタグを使用して、特定のドメインもしくはドメイングループに割り当てられているドメインに対してインフラストラクチャ ファームウェアの更新をスケジュールします。

製品ファミリに基づいて、1つのドメイン、複数のドメイン、またはドメイングループに属するドメインでインフラストラクチャ ファームウェアの更新をトリガーできます。たとえば、Cisco UCS Mini システムすべてのインフラストラクチャ ファームウェアは更新できますが、ブレードサーバは更新できません。別の例を挙げると、西海岸のすべてのメンテナンス グループは更新できますが、東海岸のものはできません。以下は、必要な初期手順の概要です。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco UCS Central に UCS ドメインを登録します。  
詳細については、『[Cisco UCS Central Getting Started Guide](#)』を参照してください。
- ステップ 2** 登録時に、インフラストラクチャとカタログファームウェアポリシーに同意し、それをグローバルポリシーにします。  
詳細については、『[Cisco UCS Central Getting Started Guide](#)』を参照してください。
- ステップ 3** イメージライブラリから適切なインフラストラクチャファームウェアイメージをダウンロードします。  
詳細については、「[シスコからのインフラストラクチャファームウェアイメージのダウンロード](#)」を参照してください。  
(注) 更新はイメージ全体をダウンロードするまで開始することはできません。
- ステップ 4** メンテナンスグループタグの値を作成します。個々のドメインまたはドメイングループのすべてのドメインにタグを適用して、メンテナンスグループにこれらを含めます。  
詳細については、「[メンテナンスグループを作成してメンテナンスグループにタグなしドメインを含める](#)」を参照してください。
- ステップ 5** メンテナンスグループタグにインフラストラクチャファームウェアの更新をスケジュールします。  
詳細については、「[インフラストラクチャファームウェア更新スケジュールの設定](#)」を参照してください。
- ステップ 6** ユーザ確認応答を有効にした場合、保留中のアクティビティセクションの更新を確認します。  
詳細については、「[インフラストラクチャファームウェア更新ポリシーの確認](#)」を参照してください。
- 

# グローバルへのファームウェアポリシーの設定

インフラストラクチャとカタログのファームウェアポリシーは、破壊的な障害をもたらすため、デフォルトではローカルに設定されています。ドメインのインフラストラクチャファームウェア更新をスケジュールする前に、これを編集してグローバルに設定します。ファームウェアポリシーがローカルに設定されると、実行時にドメインへの影響はありません。

登録時にポリシーをグローバル設定するか、または、登録後に Cisco UCS Central 内から設定できます。次のステップでは、登録後に設定する方法を説明します。

## 手順

- ステップ 1 [Browse Tables] アイコンをクリックして、[Domains] を選択します。
- ステップ 2 ドメインを選択します。
- ステップ 3 [domain] ページで、[Tools] アイコンをクリックし、[Edit Policy Resolution Control] を選択します。
- ステップ 4 [Infrastructure and Catalog Firmware] スロットで、[Global] をクリックします。
- ステップ 5 [Save] をクリックします。

# メンテナンス グループ

メンテナンス グループには、選択したドメインのコレクションか、ファームウェアを同時に更新するドメイングループに割り当てられているドメインすべてが含まれています。ファームウェアは、すぐにアップグレードするか、スケジュールしてアップグレードできます。アップグレードは、確認するようにユーザに要求することも、自動的に開始することもできます。

メンテナンス グループのタグまたは値によってドメインのコレクションをグループ化することができます。地理的なロケーション、ジョブ機能、ハードウェア、その他のビジネスズに基づいてドメインをグループ化できます。また、ドメイングループ内のドメインすべてにメンテナンスタグを適用することもできます。



**重要** ドメインに対して、同時に割り当てられるメンテナンス グループ タグは1つのみです。

## ファームウェア更新のカタログ バージョン

ジョブがスケジュールされたドメイン インフラストラクチャの更新ごとに1つのカタログを選択できます。各カタログのバージョンは1つの製品ファミリにのみ適用されます。したがって、ベストプラクティスは、カタログを更新する際に、同一の製品ファミリを持つドメインのみを含むメンテナンス グループを作成することです。次に、メンテナンス グループに含まれる Cisco UCS ドメインは、その製品ファミリに定義された機能カタログで更新されます。そのメンテナンスグループに他の製品ファミリを含めると、カタログ バージョンは更新されません。

## メンテナンス グループを作成してメンテナンス グループにタグなしドメインを含める

Cisco UCS Central に最初にアップグレードするときに、メンテナンス グループを作成し、ドメイン、またはアクションバーからドメイングループに割り当てられているすべてのドメインにタグ付けします。



(注) メンテナンス グループ タグですでにタグ付けされていないドメインまたはドメイン グループにのみタグ付けできます。

手順

**ステップ 1** アクション テーブルで、「Create Maintenance Group Tag」と入力して、Enter キーを押します。

**ステップ 2** メンテナンス グループ タグの名前を入力します。

**ステップ 3** ドメインにタグを適用する方法を選択します。

- **ドメイン グループごと**  
 メンテナンス グループ タグは、選択したドメイン グループ内のすべてのドメインに適用されます。これは、その後ドメイン グループに追加された新しいドメインには適用されません。サブドメイン グループを含めることを選択すると、メンテナンス グループ タグはサブドメイン グループ内のすべてのドメインにも適用されます。
- **手動で定義する**  
 手動でメンテナンス グループに含めるドメインを選択します。ドメインは、ドメイングループに属することも、グループに属さないことも可能です。

**ステップ 4** 選択に応じた手順を実行します。

選択した項目	選択方法
ドメイン グループごと	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ドロップダウン リストからドメイン グループを選択します。</li> <li>2 サブドメイングループのすべてのドメインを含めるかどうかを選択します。</li> <li>3 [Create] をクリックします。</li> </ol>
手動で定義する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 [Add] をクリックして、メンテナンス グループに含めるドメインを追加します。</li> <li>2 下方向へスクロールして、[Select] をクリックします。</li> <li>3 [Create] をクリックします。</li> </ol>

## メンテナンス グループ タグの値の作成

複数のメンテナンス グループ タグを作成するには、[Tag type] ページで作成します。

## 手順

- 
- ステップ1 [Browse Tables] アイコンをクリックして、[Tag Management] を選択します。
  - ステップ2 [Tag Types] をクリックします。
  - ステップ3 [Maintenance Group] をクリックして選択します。
  - ステップ4 [Edit] をクリックします。
  - ステップ5 [Maintenance Group] ダイアログボックスで、[Values] をクリックします。
  - ステップ6 [Add] をクリックし、メンテナンスグループの名前を追加します。
  - ステップ7 上記のステップを繰り返してメンテナンスグループに必要なすべて値を追加します。
  - ステップ8 [Save] をクリックします。
- 

## メンテナンスグループに含めるドメインまたはドメイングループのタグ付け

ドメインに適用できるメンテナンスグループタグは1つだけです。現在 Cisco UCS Central では、ドメインへの複数のメンテナンスグループタグの適用はサポートしていません。

## 手順

- 
- ステップ1 [Browse Tables] アイコンをクリックして、[Domains] を選択します。
  - ステップ2 ドメインを選択するか、ドメイングループに基づいてドメインをフィルタ処理し、ドメイングループに割り当てられているすべてのドメインを選択します。  
(注) 個々のドメインについて、そのドメインがドメイングループに含まれているか、含まれていないかは重要ではありません。これはドメインインフラストラクチャファームウェアの更新には影響しません。
  - ステップ3 [Tag] をクリックします。
  - ステップ4 [Add Tag] ダイアログボックスの [Type] フィールドで、[Maintenance Group] を選択します。
  - ステップ5 [Value] フィールドで、値を選択します。
  - ステップ6 [Add] をクリックします。
  - ステップ7 このメンテナンスグループに含めるすべてドメインでこれを繰り返します。  
メンテナンスグループのリストにすべてのドメインを含めるには、見出しのドメインオプションを選択して [Tag] をクリックします。
  - ステップ8 メンテナンスグループに複数のドメイングループ含めるには、それらが親ドメイングループのサブドメインである必要があります。ドメイングループおよびサブドメイングループに基づいてフィルタ処理し、その検索結果からすべてのドメインにタグを付けます。
-

# インフラストラクチャファームウェア更新スケジュールの設定

[Infrastructure Firmware update] ページでは、新しいジョブのスケジュール設定や、すでに作成されたジョブの日付変更（将来の日付に変更）が行えます。

## 手順

- ステップ 1 [System Tools] アイコンをクリックし、[Firmware Management] を選択します。
- ステップ 2 [Firmware Management] ページで、[Tools] アイコンをクリックして、[Schedule Infrastructure Firmware Update] を選択します。
- ステップ 3 [Infrastructure Firmware Update] ダイアログボックスで、[Maintenance Group] ドロップダウン リストからタグを選択します。
- ステップ 4 更新に使用する UCS ファブリック インターコネクト 製品ファミリおよび適切なファームウェアのバージョンを [Infrastructure firmware version] ドロップダウンから選択します。  
使用可能なすべてのシステム ハードウェアをアップデートする必要はありません。また、ファームウェア バージョンの異なる別のハードウェア タイプをアップデートできます。
- ステップ 5 ファブリック インターコネクト製品ファミリのドロップダウンから互換性のある [Service Pack Version] を選択します。  
サービス パックは Cisco UCS Manager 3.1(3) 以降でサポートされます。サービス パックを選択しない場合、ファームウェアのバージョンはリリースの基本の該当するバージョンにロールバックされます。サポートされる/該当するサービス パックのバージョンの詳細については、[サービス パックについて](#)、(14 ページ) を参照してください。  

(注) サービス パック 3.1(3) 以前でインストールされた Cisco UCS ドメインのダウングレードはサポートされていません。

Cisco UCS Manager 3.1(2) 以前のバージョンから Cisco UCS Manager リリース 3.1(3) へのアップグレードの場合、サービス パックを使用したインフラストラクチャの更新はサポートされません。この場合、Cisco UCS Manager はサービス パックを認識せず、アップグレードは基本バージョンのみを考慮して続行されます。
- ステップ 6 (任意) 製品ファミリの [Catalog version] ドロップダウン リストで、カタログ バージョンを選択します。
- ステップ 7 (任意) 製品ファミリの [Force Deploy] オプションを選択します。[Enable] を選択すると、Cisco UCS は、選択したバージョンをインストールする試行が以前に失敗または中断された場合でもインストールを試行します。アップグレードの検証が失敗すると、アップグレードは失敗します。その場合、障害を解決し、[Force Deploy] オプションを再度選択して、アップグレードを続行する必要があります。  
[Force Deploy] オプションと [Fabric Evacuation] オプションはデフォルトで無効になっています。これらのオプションは、Cisco UCS Manager、リリース 3.1(3) 以降でのみサポートされます。それ以前の Cisco UCS Manager バージョンでは、[Enable] オプションを選択しても機能しません。[Tools]

メニュー ドロップダウンから [Configuration Status] を選択するか、または [Domain Status] テーブルをクリックして、ファブリックエバキュエーションのステータスを表示します。

- ステップ 8** (任意) 製品ファミリの [Fabric Evacuation] オプションを選択して、AutoInstall 中の IO モジュールまたはファブリック インターコネクト上のトラフィックを開始または停止します。
- ステップ 9** ファームウェア更新をすぐにトリガーするには、[Trigger Firmware Update] フィールドの [Immediately] をクリックします。
- ステップ 10** ファームウェア更新をスケジュールするには、[Schedule Infrastructure Firmware update] フィールドでアップデートの日時を選択します。
- ステップ 11** [User acknowledgment required to install] フィールドで、アップデートにユーザの承認が必要かどうかを選択します。
- [Enabled] : (デフォルト値) ドメインをアップデートするには手動でアップデート要求を承認する必要があります。  
(注) ドメイングループがメンテナンス グループに含まれていても、確認はドメインごとです。
  - [Disabled] : ファームウェア更新はスケジュールどおりに動作します。
- ステップ 12** [Schedule] をクリックします。  
[Firmware Management] ページでファームウェア更新を監視できます。ジョブリストには、設定済みのファームウェア更新スケジュールが表示されます。

---

デスクトップファームウェア管理ウィジェットには、設定済みのファームウェア更新スケジュールがすべて表示されます。ファームウェア更新のステータスは、[Configuration Settings] ウィンドウで確認できます。

## スケジュールされたインフラストラクチャファームウェアの更新ジョブの編集

### 手順

- 
- ステップ 1** [System Tools] アイコンをクリックし、[Firmware Management] を選択します。
- ステップ 2** ジョブリストの特定のジョブを選択し、[Edit] をクリックします。
- ステップ 3** 適切な変更を行って、[Schedule] をクリックします。  
(注) すでにトリガーされた状態または最後にトリガーされた状態のジョブは編集できません。
-

# インフラストラクチャファームウェア更新ポリシーの確認

開始前にユーザの承認を必要とするようにインフラストラクチャファームウェア更新ジョブを設定すると、Cisco UCS Centralはこの承認が発生するまで起動しません。

## 手順

- 
- ステップ 1** [Domains Impacted] テーブルで、[Firmware Status] 列が [Start Pending] に変わったら、[Alerts] アイコンをクリックして [Pending Activities] を選択します。
- ステップ 2** [Acknowledge] をクリックしてメインのファームウェア更新を開始します。
- ステップ 3** [Firmware Status] 列が [Pending User Acknowledgment] に変わる場合は、Cisco UCS Central がファブリック インターコネクトを再起動するためにユーザの承認が必要であることを示します。再起動を承認するには、ステップ 1 および 2 を繰り返します。
- 

## ファームウェア管理

Cisco UCS Central では、登録されているすべての Cisco UCS ドメインのすべてのファームウェアコンポーネントを管理することができます。すべてのファームウェア更新のステータスが、[Domains] セクションに表示されます。

- Maintenance group - メンテナンス グループ名。
- Scheduled for - スケジュールされたファームウェア更新、およびすでにトリガーされている場合はステータスの詳細。
- User Ack - ユーザ承認のステータス。ファームウェアを更新する前に、[User Ack] が [Enabled] の場合、[Alerts] > [Pending Activities] ページでユーザ承認が必要です。

[Maintenance Group] についてスケジュールされた [Infrastructure Firmware Management] の次の詳細が右パネルに表示されます。選択した [Service Pack Version] が右パネルに表示されます。

- Product family - 適切な FI 製品ファミリ
- Firmware Version - 選択したファームウェアのバージョン
- Service Pack Version - 製品ファミリの選択したサービスパックのバージョン互換性のないサービスパックのバージョンを選択して、アップグレードのスケジュールを設定することはできません。Cisco UCS Manager のリリース用にサポートされているサービスパックのバージョンの詳細については、[サービスパックについて](#)、(14 ページ) を参照してください。
- Catalog Version - 製品ファミリのカタログ バージョンの詳細。



- **Force Deploy** - 製品ファミリの [Force Deploy] オプション。[Enable] を選択すると、Cisco UCS は、ファームウェア更新の選択したバージョンをインストールする試行が以前に失敗または中断された場合でもインストールを試行します。
- **Evacuation** - 製品ファミリの [Evacuation] オプションを選択して、AutoInstall 中の IO モジュールまたはファブリック インターコネクタ上のトラフィックを開始または停止します。
- **Impacted Domain** - 現在のバージョン、導入しているサービス パックのターゲットバージョン、ファームウェア ステータス、および影響を受けるドメインのドメイン ステータス。



(注) Cisco UCS Central から Cisco UCS ドメインのファームウェアを管理するには、Cisco UCS Manager でグローバルファームウェア管理オプションを有効にする必要があります。グローバルファームウェア管理オプションは、Cisco UCS Manager を Cisco UCS Central に登録するときにイネーブルにできます。また、管理要件に基づいてグローバル管理オプションのオン/オフを切り替えることもできます。

Cisco UCS ドメインは、Cisco UCS Central のドメイングループに管理目的で分類されます。ファームウェアは、ドメイングループレベルで各ドメイングループごとに別個に管理することも、ドメイングループのルートからドメイングループ全体に対して管理することもできます。Cisco UCS Central には、次の Cisco UCS ドメインのファームウェア パッケージを管理するオプションがあります。

- **機能カタログ** : ドメイングループごとに機能カタログを1つ使用します。特定のドメイングループに登録されたすべてのCisco UCS ドメインによって、ドメイングループで定義された機能カタログが使用されます。
- **インフラストラクチャ ファームウェア** : ドメイングループごとにインフラストラクチャファームウェアポリシーを1つ使用します。特定のドメイングループに登録されたすべてのCisco UCS ドメインによって、ドメイングループで定義された同じインフラストラクチャファームウェアバージョンが使用されます。

## インフラストラクチャ ファームウェアの更新の防止

インフラストラクチャ ファームウェアの更新を防ぐにはさまざまな方法があります。

- インフラストラクチャ ファームウェアの更新ジョブのキャンセル
- メンテナンス グループからのドメインの削除または除外
- メンテナンス タグの値の削除

## メンテナンス グループからのドメインの削除または除外

複数のドメインに影響があるメンテナンスグループからドメインを削除する場合、アップグレードを開始する前に、ドメインに割り当てられたメンテナンスタグを削除します。これによりポリ

シーがドメインに影響することを回避します。インフラストラクチャファームウェア更新の開始後、ドメインにタグが付けられていなければ、ドメインがアップデートされます。

### 手順

- 
- ステップ 1 [Browse Tables] アイコンをクリックして、[Domains] を選択します。
  - ステップ 2 ドメインを選択します。  
IP アドレスの下に割り当てられたタグが表示されます。
  - ステップ 3 メンテナンス タグの名前ラベル内の [X] をクリックし、タグを解除してメンテナンス グループから削除します。  
警告が表示されます。
  - ステップ 4 [Delete] をクリックします。
- 

## ファームウェア更新ジョブのキャンセル

これはドメインに含まれるすべてのジョブを取り消します。

### 手順

- 
- ステップ 1 [System Tools] アイコンをクリックし、[Firmware Management] を選択します。
  - ステップ 2 ジョブ リストからジョブを選択します。
  - ステップ 3 [Delete] をクリックします。
- 

## メンテナンス グループの値の削除



### 重要

メンテナンス グループの値、またはタグを削除する前に、それらに関連付けられているジョブがないことを確認します。

- アップグレードの開始前にメンテナンス タグを削除すると、ユーザへの通知後にアップグレードプロセスが削除します。
- アップグレードの開始後にメンテナンス タグを削除すると、アップグレードは継続されます。
- メンテナンス タグを削除してその後にジョブのスケジュールがある場合は、メンテナンス タグを再作成します。ジョブはドメインで実行されます。

- メンテナンスのタグを削除しても、ジョブは削除されません。これは、どのようなジョブがスケジュールされていたか、またどのドメインが影響を受けたかが分かるように、履歴の目的で保存されます。

#### 手順

- ステップ 1 [Browse Tables] アイコンをクリックして、[Tag Management] を選択します。
- ステップ 2 [Tag Types] をクリックします。
- ステップ 3 [Maintenance Group] をクリックして選択します。
- ステップ 4 [Edit] をクリックします。
- ステップ 5 [Maintenance Group] ダイアログボックスで、[Values] をクリックします。
- ステップ 6 タグを選択して [Delete] をクリックします。

## インフラストラクチャファームウェアの更新とディザスタリカバリ

Cisco UCS Central では、2 種類のバックアップを実行します。

[Backup for Cisco UCS Domain] : Cisco UCS Manager ドメイン全体のスナップショットを含むバイナリ ファイルを作成します。スケジュールされたインフラストラクチャファームウェアのアップグレードジョブは UCS ドメインに含まれていません。そのため、ドメインの復元は、スケジュールされたインフラストラクチャファームウェアのアップグレードジョブには影響しません。

[Backup for Cisco UCS Central] : Cisco UCS Central システム全体のスナップショットを含むバイナリ ファイルを作成します。このバックアップにより生成されたファイルを使用して、ディザスタリカバリ時にシステムを復元できます。このバックアップからの復元は、ジョブスケジュールに影響する可能性があります。



#### 重要

Cisco UCS Central のリリース 2.0 へのアップグレードの影響があるため、アップグレードする前に、すべてのドメイングループの更新を行うことをお勧めします。ユーザ確認応答が保留中の更新ジョブがないことを確認します。すべてのジョブがアップグレード中に削除されるため、リリース 2.0 で作成しなおす必要があります。

シナリオ	影響
過去にジョブをスケジュールした Cisco UCS Central バックアップを復元します。	<b>影響なし</b> ：更新は影響を受けません。バックアップファイルにはメンテナンス タグと登録済みドメイン情報が含まれます。それまでのジョブは含まれないので影響を受けません。それまでの日付でスケジュールされたジョブは実行されません。
将来にジョブをスケジュールした Cisco UCS Central バックアップを復元します。	<b>影響なし</b> ：ジョブはスケジュールどおりに実行されます。
Cisco UCS Central システムは、インフラストラクチャファームウェアの更新を実行している間にクラッシュします。	<b>影響あり</b> ：Cisco UCS Central システムの回復後はジョブは実行されません。スケジュールをしなおす必要があります。
構成のバックアップを復元します。	<b>影響なし</b> ：構成のバックアップには、ジョブ情報は含まれませんが、メンテナンスのタグ情報が含まれます。交換オプションを使用して構成のバックアップから復元すると、復元されたシステムにはジョブ情報が含まれていません。統合オプションを使用して復元し、将来の日付でジョブをスケジュールしていた場合、バックアップからのタグ付けされたドメインは将来のジョブに含まれます（この情報は影響を受けたドメインリストに表示されます）。
現在のシステムと完全な状態のバックアップをマージします。	<b>多少の影響あり</b> ：現在スケジュールしているものはオーバーライドしませんが、ジョブの記述を復元しないため、そのジョブを再作成する必要があります。
Cisco UCS Manager ドメインは表示されなくなり、更新の前または最中に登録解除されるようになります。	<b>影響あり</b> ：ドメインが再度表示されたときに更新は再度開始されません。手動で開始する必要があります（オンデマンドで）。
完全な状態のバックアップを作成します。ドメインのタグを外します。バックアップから復元します。	<b>影響あり</b> ：ドメインがバックアップにタグ付けされているため、バックアップの復元時タグ付けされたままになっています。ジョブを将来にスケジュールしていた場合は、ドメインが含まれています。これを防ぐには、再度ドメインのタグを外します。

シナリオ	影響
ジョブの実行中、編集します。	<b>影響なし</b> ：進行中はジョブを編集できません。ただし、ドメインからメンテナンスタグを削除したり、最初の保留中の確認応答要求を確認する前に、ジョブを削除することができます。
HA フェールオーバーが発生します。	<b>影響なし</b> ：スケジュールされたジョブは通常どおり実行されます。
Cisco UCS Central の以前のリリースからアップグレードします。	<b>影響あり</b> ：以前のバージョンはドメイングループごとにファームウェアを更新しました。現在のバージョンではメンテナンスグループごとに更新します。ドメイングループまたはスケジュールされたジョブの情報はアップグレード中は保存も転送もされません。メンテナンスグループを作成し、含めるドメインをタグ付けする必要があります。さらに、すべてのインフラストラクチャファームウェアの更新ジョブを再作成し、スケジュールしなおす必要があります。

## Lightweight のアップグレードについて

Cisco UCS Central 2.0 には、ファームウェアのアップグレードを強化し、サービスパックによってセキュリティ更新を提供する Lightweight のアップグレードが導入されています。サービスパックは、固有のものであり、メンテナンスリリースに累積されます。Cisco UCS Central は、Cisco UCS Manager バージョン 3.1(3) 以降のサービスパックによってファームウェアのアップグレードをサポートしています。

- Lightweight のアップグレードでは、次の方法でファームウェアのアップグレードを強化しています。
  - コンポーネントのファームウェアバージョンは、変更された場合にのみ更新されます。
  - セキュリティ更新はサービスパックを通じて提供されます。
  - サービスパック内では、更新は特定のコンポーネントにのみ適用される場合があります。これらのコンポーネントは、エンドポイントの再起動なしでアップグレードされることがあります。
  - インフラストラクチャおよびサーバコンポーネントの更新は、共通のサービスパックバンドルを通じて提供されます。サーバコンポーネントについては、変更したファームウェアイメージのみがサービスパックバンドルの一部となります。

## サービスパックについて

サービスパックは、Cisco UCS Manager インフラストラクチャとサーバコンポーネントにセキュリティ更新を適用するために使用できるパッチです。サービスパックは、基本リリースに固有のもので、サービスパックは、インフラストラクチャコンポーネントとサーバコンポーネント用の単一バンドルとして提供されます。

サービスパックのバージョンには、次のガイドラインが適用されます。

- サービスパックは基本のバンドルにのみ適用できます。サービスパックは単独でインストールできません。たとえば、サービスパック 3.1(3)SP2 は 3.1(3) リリースにのみ適用できます。3.1(4) またはそれ以降のリリースと互換性がありません。
- サービスパックではこれまでの修正内容が累積されています。同じメンテナンスリリースであれば、どのパッチバージョンでも最新のサービスパックを適用できます。たとえば、3.1(3)SP3 には、3.1(3)SP2 および 3.1(3)SP1 に行われたすべての修正が含まれます。任意の 3.1(3) リリースに 3.1(3)SP3 を適用できます。
- 個別のメンテナンスリリースのサービスパックのバージョンの番号付けに関連はありません。たとえば、サービスパック 3.1(3)SP2 と 3.1(4)SP2 は別個のもので関連はありません。
- 個別のサービスパックを使用して、メンテナンスリリースごとに同じ修正を適用できます。たとえば、3.1(3)SP2 および 3.1(4)SP3 で同じ修正を適用できます。
- メンテナンスリリースのサービスパックを、デフォルトのサービスパックのバージョンより下のバージョンにダウングレードすることはできません。次に例を示します。
  - 基本バンドルのバージョン : 3.1(3b)
  - デフォルトのサービスパックのバージョン : 3.1(3)SP2 (デフォルト)
  - 実行中のサービスパックのバージョン : 3.1(3)SP3
  - サービスパックは、3.1(3)SP2 より下にダウングレードできません
- サービスパックのアップグレードまたはダウングレードが失敗すると、そのメンテナンスリリースのデフォルトのサービスパックのバージョンが実行中のサービスパックのバージョンになります。
- サービスパックの選択を削除することにより、基本リリースに適用されたサービスパックをロールバックできます。

次の表は、Cisco UCS Manager のリリースバージョンおよびサービスパックが適用されるさまざまな状況で導入された実行中のバージョンを示しています。

更新のシナリオ	バンドルのバージョン	サービスパックのバージョン
同じメンテナンスリリースでのサービスパックの更新	バンドルのバージョンは変更されません	サービスパックは、指定したバージョンに更新されます

更新のシナリオ	バンドルのバージョン	サービス パックのバージョン
サービス パックの削除	バンドルのバージョンは変更されません	サービス パックは、バンドルに付属するデフォルトのバージョンです
別のメンテナンス リリースへの基本バンドルの更新	基本バンドルは、指定したメンテナンス リリースのバージョンに変更されます	現在のサービス パックが削除され、基本バンドルのデフォルトのバージョンに更新されます
別のメンテナンス リリース、およびサービス パックに更新されます	基本バンドルは、指定したメンテナンス リリースのバージョンに変更されます	サービス パックは、指定したバージョンに更新されます

ファームウェアアップグレード用の互換性のあるサービスパックの選択の詳細については、「ホストファームウェアパッケージポリシー」、「インフラストラクチャファームウェアの更新のスケジューリング」および「シャーシファームウェアパッケージポリシー」を参照してください。

